

宜基渉第 84 号
平成 31 年 2 月 5 日

沖縄米国総領事
ロバート・ケプキー 殿

宜野湾市長 松川 正則

普天間飛行場への外来機の飛来による騒音被害の常態化について
(抗議・要請)

まちのど真ん中にある普天間飛行場は、市街地と隣接していることから、航空機事故の危険性や、騒音等による基地被害が市民の大きな負担となっています。

特に、ジェット戦闘機をはじめとする外来機の飛来に伴う騒音については、市民生活に甚大な影響を与えることから、本市はこれまで普天間飛行場への外来機の飛来禁止を強く要請しており、昨年 11 月にも貴職に対し抗議・要請を行ったところであります。

しかしながら、その後も外来機の飛来は相次ぎ、1 月 17 日には、ジェット戦闘機 (FA-18) が普天間飛行場に飛来し、市内上大謝名地区において、最大 122.5 デシベルもの騒音が測定されました。直近の 2 月 1 日にも外来機の飛来が繰り返されるとともに、同様に最大 121.1 デシベルの騒音が測定されるなど、市内において 100 デシベル以上の非常に大きな騒音が何度も確認されております。本市へも市民から多数の苦情が寄せられており、状況の改善が見られず、外来機の飛来が常態化している現状は極めて遺憾であります。

市民が実感できる危険性除去及び基地負担軽減を強く求めている中で、このような更なる負担となる騒音被害を、断じて容認できるものではありません。

つきましては、普天間飛行場へのジェット戦闘機をはじめとする外来機の飛来による騒音被害に厳重に抗議するとともに、貴職から米軍に対し、外来機の飛来禁止及び市民生活への十分な配慮を改めて強く申し入れていただくようお願い申し上げます。

問題の抜本的な解決に向け、普天間飛行場の一日も早い閉鎖・返還と速やかな運用停止をはじめとする返還までの間の危険性除去及び基地負担軽減を早急に実現するよう強く要請いたします。